

グレードアップした五式戦で安藤由隆選手初優勝 RCスケール日本選手権入賞機

平成9年10月25、26日の両日、岡山県笠岡市かぶと西町・笠岡地区農道離着陸場で、平成9年度・第7回模型航空ラジオ・コントロール・フライング・スケール（F4C）日本選手権が、日本模型航空連盟主催で開催された。

競技は、FAI・F4C規定に準じて行なわれ、第1日目に機体静止審査と飛行第1ラウンドが、第2日目に飛行第2ラウンドが行なわれた。



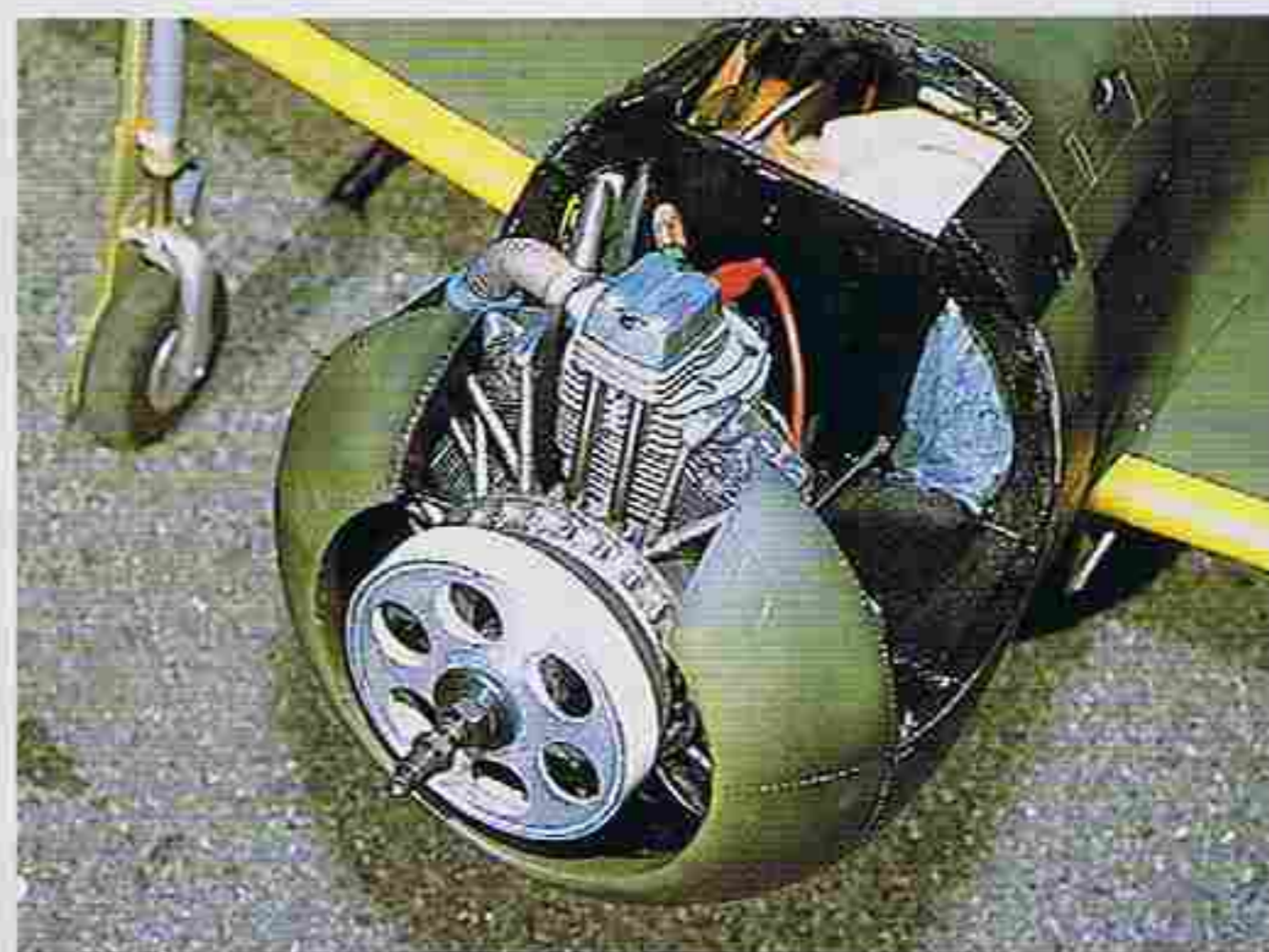
●当日の詳細は次号に掲載予定。

優勝

安藤由隆選手（神奈川・横浜市） **川崎キ-100 五式戦** スケール 1/5.6

飛行1R=1069.00点 静止審査=1616.50点
飛行2R=1093.00点 総合得点 2697.50点

'96年のF4C世界選手権用に製作された自設計機体で、その後、コックピット内部にあるハイドロ・コントロール・パネル、スタビライザー・コントロール、メイン・ギヤのギヤ・ボックスなど増設・改修をした。主尾翼はバルサ・リブ組み、胴体は胴枠がベニヤ、側板がバルサ製、仕上げはグラス・サフェーサー仕上げ。水平でスロー・ロールが出来るとのこと。これまでに約20フライトくらい飛んでいる。



テクニカル・データ／全幅2140mm、全長1570mm、全備重量6.77kg、主翼面積64.8d㎡、主翼翼型は実機図面を参考にした翼厚12.5~10.5%、RC装置Futaba 8ch・9サーボ、エンジンOS FS-120S-E、プロペラ・グラウプナー製D16×P8（ナイロン）、エンジン・スラスト・ダウン0°/サイド1°。



↑飛行審査部門でも最高得点を獲得して日本選手権初優勝した安藤由隆選手の川崎キ-100五式戦の飛行。